

日本大学三島高等学校

# 同窓会会報

第16号

昭和62年3月2日  
静岡県三島市文教町2  
日大三島高校同窓会 発行

御  
挨  
拶

会  
長  
高  
田  
菊  
平



会員の皆様方におかれましては、  
お変わりなく、御活躍のこととお  
慶び申し上げます。同窓会も皆様  
方のかわらぬ御支援を賜わりまし  
て、それぞれ地域における活動も  
活発化されつつあり大変ありがた  
く厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の経済状態は大変困  
難な時を迎えておりますが、昨年  
来の円高を基点として急激な経済  
構造の変化をよぎなくされてきて  
おり、今まで基幹産業として日本  
の経済をささえてきた、鉄鋼、織  
維、石炭、造船産業が根底からく  
ずれてしまうほどであり、それら  
の産業が、又他の産業もそれぞれ

が生き残りのための懸命な努力を  
続けており、日本の企業全体が日  
本の経済の枠をのりこえて国際経  
済の中で歩んでいかなくてはなら  
なくなってきたとあります。それ  
にもなつて、ますます情報が地球  
的規模で転回され、日常感覚の中  
に国際化の波がさらにおしよ、ん  
でくるものとなります。

この難かしい経済状況の中を会  
員の皆様方は、それぞれの分野に  
おいて、困難に立向い一生懸命努  
力していることとします。そし  
て、皆様方のその活躍の話題を目  
にするたびに大変よろこばしく思  
うのであります。このような世相  
の中にあつて、会員の皆様方がお  
互に力を添えあうことができるの  
ならなをさらに大きな力になりう  
ることでしょう。

会員数も創立以来二万七千余名  
になりました。そして高校創立以  
来あと一年で三十周年を迎えるこ  
ととなりました。これを機に、同

窓会会員名簿の作成をてがけるこ  
ととなり、委員会も発足させ、三  
十周年をめざして発刊させるよう  
準備に入りました。これには会員  
の皆様方の多大な御協力を得なけ  
ればよりよい名簿を作成すること  
ができません。これから先、皆様  
方にそれぞれ御連絡がいくと思ひ  
ますが何卒よろしく御協力賜わり  
ますようお願い申し上げます。

昨年各地域の支部活動が活発  
におこなわれておりましたが、昨  
年の暮には富士支部の主催する同  
窓会忘年会がおこなわれ、多くの  
人が出席して下さいました、会員  
の皆様方の親睦と交流を深めて、  
さらによりよい同窓会の発展の為  
に貢献していただけますよう切に  
おねがい申し上げます。

皆様方のかわらぬ御支援と御協  
力を、又、御活躍を期待し、御接  
拶といたします。

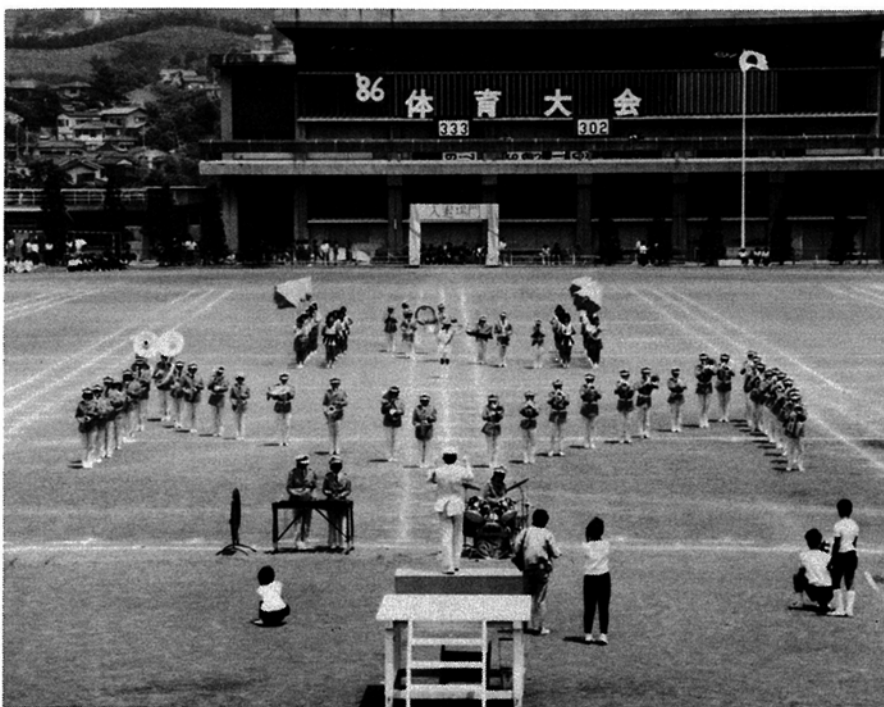
(62・1・21)

## 高田菊平氏の紹介

氏は、母校の第一期生であり  
昭和五十三年の四月より、故玉  
津徳太郎先生（母校二代目の校  
長）の後を受け継ぎ、第三代目

奨励会々長をもつとめています。  
氏を一言で語るならば、真実  
と温厚の人ということができ  
でしょう。それはおのずと同窓  
会員の人望を広く集めるところ  
となっています。

現在、ニューデルタ工業株式  
会社（三島市梅名）社長。趣味  
は、テニス・ゴルフ・山登り・  
旅など。



〈吹奏楽部グラウンドドリル風景〉

# 御挨拶

校長 北岡 功



チの伝統化を見事果たしていることを共によりこびたいものでございます。

ことしの年頭に当たり、教職員おたがいに申し合わせましたことの一つに、「地域に根ざした本校の存在感」につき真剣に見直すことを取りあげたこととございます。来たる六十五年をピークに、以後、漸減として激減していく中学生徒数をふまえて、地域から取り残されないための文・武両面における教育体制を抜本的に見直し、それに呼応するだけの改善、刷新を積極的に進めていこう、ということとでございます。もちろん、それに見合う施設・設備への要望は三島学園ぐるみの問題として三島学園ぐるみの問題として学園長中心に検討、策定していただくようお願いしてございます。

おもえば三年前、甲子園のセンバツ野球大会初出場のよろこびのなか、新入生として迎え入れたのが、やがて卒業していく現在の第二十七期生でございます。新しい同窓会員としてお仲間入りするわけですが、「後生畏るべき」たくましい日大マンに育てあげてやってください、お願いします。

昨年度の卒業生とくらべ、約二百名多いことから心配された大学進学も、全く昨年と変わらず、教職員一同ホッとしているところでございます。

生徒会各部の対外活躍も昨年並み、いやそれ以上の実績を収めましたことは、本誌の別欄に掲載されていることと思えますのでお読み願おうと存じます。これらの内、運動関係の水泳部、スケート部、そして文化関係の放送部、写真部、美術部がコンスタントな実績を残して、皆さんからのバトン・タツ

そうではないか、と戒めあったことでございます。

時流といえは、只今はいわば「陽」ならぬ「陰」の時代、社会的には集団の実績を以て評価される時の流れかと存じます。学校にしろ、企業にしろ、政治にしろ、一人の力でどうなるものではございません。おたがい、あなたまかせの日和見の他力本願を捨て、同窓会という集団のなかで相互依存の人間関係を深め、と同時に個人相互のもとめるシェアを確保しない限り、元（集団）も子（個人）も失せてしまふのではないでしようか。

まず、集団に貢献することとでございます。そして、その集団を通してご自分の帰属するいま一つの集団の生成発展を図り、そのシェアをご自分のものにするにとでございます。

ここに学び、ここに働き、そしてここに住み、生きがための拠り所のひとつに、ぜひ同窓会を有効に活用されますよう、お祈り申しあげる次第でございます。

同窓人の誇りは、そんなハラカラ（同胞）の心の結束の中から生まれいずるものと信ずるからでございます。

— 62・1・25 —

## 副会長挨拶

### 錦の心



リッチな人の条件のひとつに絹のクツ下をはくことがある。本当のオシャレは目につかないところにも気を配りなさいと云うことであらうが、では日大節の「ボロは着ても心は錦」と対峙するものかと云えば、かならずしもそうでは無さそう。

しかし私はどうしても「心の錦」つまり豊かな心と高い理想、強い信念の方を採ってしまう。と書けばいかにもヒューマンにとらわれがちであるが、実は現金手間のからぬ方を選んだにすぎない。第一心は他から見えぬものであるし余程空腹な時や珍しきものが目の前にぶらさがった時などは、錦などいづれでもかなぐり捨てられるのである。

私の友人にブランド指向型の者が居て、身につけているものから調度品、ペットに至るものまでいろいろ名柄を気にするが、彼はまたそれを買う店をいちいち点検し、ののしり、そしてねばりぬいてねざり倒す名人である。私達は、きつと彼の妻君は極めて温厚か命知らずか胃潰瘍で、絹のクツ下をは

## 植田正年

いているに違いないと誰しもが憶測するものである。

リッチな人の条件は、やはり分想応なものを選択することなのである。その点日大三島高校は創立以来風変りな卒業生を多く産出しているが、これは学園の持つひとつの雰囲気が大きく作用しているであらう。

他のものはダメだが、こいつならまかせておけ、というものを持っている、個性の発育が旺盛だったのであらう。そんな母校をこよなく愛するものが多く、私もその一人である。世の中へ出て「日大かい、俺も日大、そうか、よし俺にまかせろ」という場面にぶつかったら、これが日大カラーだと思いがいい。

心を大切に、それがリッチな人間の出发点である。後輩達よ絹のクツ下をはく、その足が創る足跡をしっかりと見つけたまえ。

### 植田正年氏の紹介

氏は本校の一期生で、現在、天城湯ヶ島町で旅館「嵯峨沢館」を経営している。初代田方支部長。後輩思いの頼れる先輩として人望があつた。



## 歓迎の言葉

## 桑原 康晃（五期）



新入会員の諸君、高校卒業おめでとうございます。いよいよこれから日本大学三島高等学校の同窓生として全国に飛散し、活躍せんとするときであります。思えば長いようで短かった高校時代も振り返っていかがだったでしょうか私はこれからが君達の本当の生活が始まるものと考えます。それを進学者・就職者の両面から考察し記述してみたいと思います。何かこれからの人生の足しになれば幸いです。日本大学の精神は言うまでもないが、その真髄はどこにあるか。について私の大学時代を思い出し、とはいってももう二十二年も前になってしましますが、東北は郡山日本大学工学部に入學し日本大学の真髄を学んだのです。俊英学寮における先輩諸氏の徹底した指導が正にそれでありましたグラウンドにおける歌唱指導において、日本大学の校歌、応援歌、エンジニア校歌、日大節、花の精鋭寮歌と毎日帰寮と共に寒風に耐え一節一節を歌われ、先輩から後

輩に受け継がれ、歌われ、脳裏から離れないことであります。これらの歌詩は本当に立派で、本学の真髓がこの中にあるように思われます。今でも結婚式、同窓会、その他日本大学関係の会合等にはしめくくりに歌われます。校歌は手拍手なしで歌いたいものです。その中のエンジニア校歌の一節は青春に夢あり宇宙に真理あり、現実と理想を結ぶもの我等、不屈の意志を、限りなき奉仕と愛の心もて、これらの一言、一言が我ら日本大学の一員として常に心がけねばならぬことではなからうか。これらの精神面から考えれば進学者にしても、就職者についても同じものだと確信いたします。もちろん校歌にもあるように「正義と自由」この旗標を常に思い、これからの実社会において、各人の行動および生活に責任をもち、本学の同窓生として認識をもつていってほしいと思います。人生、大なるものは十年で、小なるものは五年で計画し自分のものにしていく。良き人生を得るよう心技体の向上につとめ、わが胸に榮えるよう、同窓会の一員として巣立つ諸君に、我ら同窓生は心よく歓迎し、供々語り、新たに幸ある世界を築いていくのではないかと。

## 見識ある社会人として

清水順子 (二十七期)



この度、私達六十一年度卒業生は本校における高等学校の課程を無事終了し、第二十七期生として同窓会に入会させて頂くことになりました。

高校生活三年間では、勉強・部活・自治活動とあらゆる方面で幾多の経験をしてきました。これからは、もっといろいろな人と出会い、自分を見つめ直す機会も増えることと思います。そしてまた新しい目標を立て、それに向かって漸次、自己を確立していきます。

人生はこの繰り返しではないでしょうか。各々の遂げようとするものは勿論異っていますが、どれもがまさに「一寸先はやみ」というみ通しの悪い道です。それを途中であきらめることなく進んで行けるのは、高校生活の中の校長先生をはじめとする諸先生方の教えや戒め、友人からの励まし、そして先輩方のご指導があつてこそだと思います。まだまだ自分で世に立つ力は十分ではありませんが、この同窓会に入会することによって自分を大きく成長させることができると思います。すばらしい伝統を築き、さらに数々の栄誉を残してくださった先輩方を模範とし、常識のある社会人、また見識のある社会人となることを約束します。

あと数十年で、二十一世紀という新しい時代が始まるわけです。私達はこの情報化・国際化と目覚ましく発展しつつある日本を背負っていかねばなりません。そのためには勉学の面においても諸に付することなく、精一杯頑張っていきたいと思えます。何分にも高校生気分が抜けない私達ですが一歩一歩進んでいきたいと思えます。時には悩み苦しんで、人生がいやになるかもしれません。どうかその時には厳しく、そして暖かい励ましとご指導をよろしくお願いいたします。

二十七日生クラス幹事

|                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 三<br>の<br>九      | 三<br>の<br>八      | 三<br>の<br>七      | 三<br>の<br>六      | 三<br>の<br>五      | 三<br>の<br>四      | 三<br>の<br>三      | 三<br>の<br>二      | 三<br>の<br>一      |
| 鈴<br>木<br>良<br>太 | 近<br>松<br>康<br>浩 | 杉<br>山<br>良<br>潤 | 綾<br>部<br>良<br>裕 | 生<br>田<br>康<br>榮 | 古<br>澤<br>康<br>則 | 大<br>嶽<br>順<br>市 | 杉<br>本<br>信<br>行 | 影<br>島<br>勝<br>巳 |

|      |      |      |      |      |      |      |      |     |
|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 三の十八 | 三の十七 | 三の十六 | 三の十五 | 三の十四 | 三の十三 | 三の十二 | 三の十一 | 三の十 |
| 伊東   | 江塚   | 古川   | 石渡   | 深澤   | 大庭   | 石原   | 土屋   | 嶋津  |
| 幹    | 善    | 義    | 康    | 敦    | 敏    |      |      |     |
| 夫    | 稔    | 規    | 和    | 仁    | 彦    | 守    | 生    | 英   |

三三三三三三三三三三  
L K J H G F E D C B A

松佐稲杉岩上榑清竹町長  
尾藤本本崎柳水尾野澤  
裕朱悦留智京たま順美千美  
美美子美美子子み子穗晶保



# 母 校 部 活 状 況

## 〈庭球部〉

- 第9回全国高校選抜庭球大会東海地区予選大会  
第3位（全国大会の出場権取得）

## 〈スケート部〉

- 全国高等学校総合体育大会  
県大会総合優勝（17連勝）  
男子2000Mリレー 第1位  
女子2000Mリレー 第1位
- 国民体育大会冬季スケート競技会（県予選）  
1500M 杉 浦 英 明 第1位  
5000M 杉 浦 英 明 第1位  
10000M 白 井 淳 第2位  
500M 木 下 里 佳 第1位  
1000M 杉 山 博 美 第1位  
1500M 古 屋 治 代 第1位  
3000M 古 屋 治 代 第1位

## ——文 化 部——

## 〈美術部〉

- 第6回全国高校生美術作品コンクール  
入選 平松栄一、原 敏之、近藤敦史、青木健司、緒方由希子  
清水詔子、山田雅子、三原尚子、田中有紀、鈴木尚美
- 覚醒剤シンナー乱用防止ポスターコンテスト  
杉 山 卓 也 最優秀賞

## 〈写真部〉

- 第8回読売写真大賞  
芹 沢 薫 努力賞
- キャノンヤング・ヤングフォトコンテスト  
杉 山 彰 一 特 選
- 第8回けんみんテレビ 夏の高校野球フォトコンテスト  
芹 沢 薫 銀 賞  
大 島 章 男 銅 賞  
森 喜 洋 佳 作

- 第10回全国高校野球フォトコンテスト  
入選 大島章男、芹沢 薫、勝又裕介、杉山彰一

## 〈放送部〉

- 第33回NHK杯全国高校放送コンテスト  
アナウンス部門 久 保 蘭 子 第4位  
杉 山 由紀子 第4位  
久保田 小百合 優秀賞  
朗読部門 関 本 博 子 県1位  
ラジオ番組自由部門 「次の日」 県1位  
ラジオ番組課題部門 「高校生って」 優秀賞  
テレビ番組自由部門 「マリオネットの悲劇」 県2位  
「懐跡の都—楽寿園」 県3位  
テレビ番組課題部門 「屋根裏の演奏者」 優秀賞  
研究発表部門 「ワイヤレスマイクのノイズ対策」 県1位

- 高校生による21世紀映像コンテスト  
「影のプレーヤー」ビデオサロン賞  
「Let'sせいしゅん」 ブロンズ賞

## ——運 動 部——

## 〈水泳部〉

- 全国高等学校総合体育大会（島根）、  
男子100M自由形で、藍川健一が第5位に入賞。  
甲斐貴信、杉本江里、奥山保子、伊藤可奈子、伴野浩之、  
佐川由起子、石谷朋彦、南岡柴野、南雲珠江、羽根田和幸  
奈倉 康彦、原 弘光、桐谷 滋宏、篠沢 慶也、羽畑 博孝、  
石川俊子、木俣光恵が、出場した。
- 全国総体県大会  
学校対抗 男子総合優勝・女子総合優勝
- 全国総体東海大会  
100M自由形 藍 川 健 一 第1位  
200M平 泳 石 谷 朋 彦 第1位  
200M背 泳 奈 倉 康 彦 第6位  
400M個人メドレー 羽根田 和 幸 第3位  
800M自由形 杉 本 江 里 第3位  
100M平 泳 南 雲 珠 江 第2位  
200M平 泳 南 岡 柴 野 第4位  
100M背 泳 佐 川 由 起 子 第3位  
100M蝶 泳 伊 藤 可 奈 子 第3位

- 国民体育大会（山梨）  
11名の選手が、出場し大いに活躍。とくに藍川健一、少年男子B100M自由形第1位。  
石 谷 朋 彦 少年男子A200M平泳第5位。  
伊 藤 可 奈 子 少年女子B100M蝶泳第3位。  
南 雲 珠 江 少年女子B200M個人メドレー第4位。  
杉 本 江 里 少年女子B400M自由形で第6位とそれぞれ入賞した。

- 静岡県高校新人大会  
学校対抗 男子総合優勝・女子総合優勝  
100・200M自由形 藍 川 健 一 第1位  
400M自由形 甲 斐 貴 信 第1位  
100・200M平泳 石 谷 朋 彦 第1位  
400・800M自由形 杉 本 江 里 第1位  
100M平 泳 南 雲 珠 江 第1位  
100M蝶 泳 伊 藤 可 奈 子 第1位

## 〈陸上競技部〉

- 全国高等学校総合体育大会（山口）  
ハンマー投に、小澤清隆が、出場した。
- 静岡県高校新人大会  
ハンマー投 小 澤 清 隆 第1位  
やり投 田 代 一 徳 第1位

## 〈卓球部〉

- 全国高等学校総合体育大会（山口）  
坂本一路が、個人戦シングルスで、出場。
- 〈ソフトボール部〉  
○国民体育大会県予選兼県高校選手権大会 優 勝

## 〈バレーボール部〉

- 国民体育大会（山梨）  
秋山 央が県選抜のメンバーとして、出場。（ベスト8）





ハンマー投げ決勝 室伏重信選手の力強いフォーム (宮川陸男写真部員撮影)

鉄人「不惑の偉業 満41歳

## ハンマー！室伏が5連覇

ワウル三千日！松井特派員二日連続四十一歳を迎える室伏重信選手(中京大助教)が、前人未踏の偉業を成し遂げた。ソウル・アジア大会十一日の三千日、陸上・男子ハンマー投げで、前回のニューデリー大会に続いて日本選手団の主将を務めた超ベテランは五段目、60分20秒を投げ、若い中国勢の追い上げをかわし、史上初の大会五連覇を達成した。ロス五輪後一年半余のブランクを余儀なく



ハンマー投げでアジア競技大会五連覇を成し遂げた室伏重信選手に、昭和六十一年十月十七日に、内閣総理大臣顕彰状が贈られた。  
室伏重信選手は、母校の第四期生であり、母校在学中に、ハンマー投げ高校新記録を出した。そして、四十七年のミュンヘン五輪八位、モントリオール、ロス五輪代表に選ばれた。とくに、ロス五輪直前には七十五メートル九十六と日本記録をのびし、驚異的なベテランパワーを発揮した。  
アジア大会では四十五年のバンコク大会から敵はない。日本選手権は四十九年からの十連覇を含め十二回優勝。  
現在、中京大学体育学部助教授。著書に「鉄球は教えてくれた」がある。

## ハンマー投げ 室伏重信選手(四期生) 内閣総理大臣顕彰を受ける

記録は私一人の力で生まれたものではない。

良き師、良き先輩、良き友人たちの支えが

あればこそ、それはできた。

「鉄球は教えてくれた」より

## アジア大会記録

|     |      |     |            |
|-----|------|-----|------------|
| 5 回 | 1966 | 2 位 | 60m02      |
| 6 回 | 1970 | 優 勝 | 67m08      |
| 7 回 | 1974 | 優 勝 | 66m54      |
| 8 回 | 1978 | 優 勝 | 68m14      |
| 9 回 | 1982 | 優 勝 | 71m14(大会新) |
| 10回 | 1986 | 優 勝 | 69m20      |

### 〔第20回全国高校生ポスター・絵画・写真・映像コンクール〕

〈美術部〉絵画部門 学校協力賞  
加 藤 睦 子 銅 賞  
ポスター部門 加 藤 洋 佳 作  
入選 石沢伸一、長田俊広、平松栄一、近藤敦史、飯塚 智  
田宮 彩、宇多路子、杉山卓也

〈写真部〉入 選  
森 喜洋、望月 靖、増田教三

〈放送部〉入 選  
「こわれもの」「懐跡の都一楽寿園」「我ら放送族」

### ○第24回全国高等学校放送コンクール

アナウンス・DJの部 関 本 博 子 第2位  
久 保 蘭 子 第3位  
朗読の部 天 野 美 子 第2位  
ドラマドキュメントの部 「Human Heart」 第4位  
ラジオCMの部 「みんなでうさぎパイ」 第3位

### ○第7回静岡県高校放送新人コンクール

アナウンス部門 神 田 暢 子 優 勝  
勝 呂 弘 美 第2位  
土 屋 恭 子 第2位  
朗読部門 平 川 幸 子 第3位

### ○テレホンサービスコンクール

趣味と教養の部 東海大会優秀賞



# 同窓会のうごき

## 総会

昭和六十一年度の総会は、四月二十六日、三島駅前田代パレスにおいて、母校校長の北岡功先生をお迎えして、盛大に開催されました。

同窓会活動の基本は、それぞれの地区と、それぞれの卒業期にあることは言うまでもありません。その二つの活動の融合と統合が総会ではないでしょうか。

母校には、今年の四月いよいよ第三十期生にあたる新入生が入学します。先輩にしても後輩にしても、充実の時代に入ってきたことを強く感じます。

## 納涼船

恒例となっている納涼船を、七月二十日の夕方、沼津港から三津浜へと出しました。今年も家族同伴で楽しいひと時を過ごしました。地理的な関係から、沼津と三島の各支部が中心となって準備をしました。さて当日のハプニング。それは、来るはずの副幹事長の藤幡俊量君が来ない。船は出て三津浜へ。すると、スカンジナビア号の上から「高桑センセイ」の声。それが藤幡君でした。間に合わず、車で追いかけて来たのとこのことでした。

## 同窓会名簿発行について

同窓会では、母校創立三十周年を機に会員名簿を発行します。発行は六十三年夏の予定で、価格は三千八百円の子定です。この件に関する問い合わせは母校事務局にお願いします。また、名簿作成に関する会員の皆様のご協力を、ぜひともお願い致します。

## 入会式(二十七期生)

## 元巨人軍 張本勲氏を迎えて

さる二月十四日、母校八号館講堂にて、第二十七期生の同窓会入会式がおこなわれた。新入会員千三百四十六名を代表し、仁藤丈也君が入会の決意をのべました。

恒例の記念講演は、元巨人軍、現野球評論家の張本勲氏による、「私の歩んできた野球人生」でした。東映フライヤーズから始まったプロとしての栄光の道の裏には、常に一本のバットにかけた苦難があったのです。

二十七期生の未来への健闘を祈るものであります。



張本 勲氏

## 恒例の忘年会をひらく

富士支部長

西村雅幸(一期)



毎年恒例になっている同窓会忘年会を、今年は富士支部が幹事として開催することになり、十二月十三日、北岡功校長先生をお迎えして盛大におこなった。

そこにいたるまでの準備として、まず、支部の幹事会を招集し、検討を重ねる。その席上において活発な意見が出されていく。日程・会場・時間・催し物等々である。

しかし、何といっても多くの同窓の人達に出席して欲しいという点で苦労したような気がする。また、母校現校長先生には是非とも出席していただくよう働きかけたこと、三島・沼津からも多くの先生、同窓生に出席していただくように案内をしたこと。しかも、遠路出席していただくのだから、楽しんでもらいたいと必死で進行を考えたことなど、幹事をはじめとして多くの仲間助けられた。

当日は、予想以上の出席であり、会場の雰囲気もなごやかに、久しぶりの対面も感動的だったりと、盛りあがったと思われる。

# 昭和六十一年度事業報告

## 一、総会

四月二十六日

於「田代パレス」

- 一、開会の辞
- 一、会長挨拶
- 一、学校長挨拶
- 一、議事

- (1) 昭和六十年度事業報告
- (2) 昭和六十年度決算報告
- (3) 役員改選
- (4) 昭和六十一年度事業計画
- (5) 昭和六十一年度予算案
- (6) その他

## 二、幹事会

- 一、懇親会
- 一、三月十九日 於「不二美」
- 二、四月十七日 於「不二美」
- 二、総会の件
- 三、六月七日 於「不二美」
- 三、納涼船の件
- 四、十月九日 於「不二美」
- 四、名簿作成の件
- 五、十月二十日 於「不二美」
- 五、名簿作成の件
- 六、十一月八日 於「不二美」
- 六、名簿作成の件
- 七、一月二十日 於「櫻」
- 七、入会式の件
- 八、名簿作成の件
- 八、会報発行の件
- 八、総会の件

## 三、事業

- 一、納涼船 七月二十日

## 沼津港より

二、二月十四日

於 母校八号館

- 同窓会入会式(二十七期生)
- 記念講演会
- 「私の歩んできた野球人生」
- 元読売巨人軍選手
- 現野球評論家
- 張本 勲氏

三、三月二日

○同窓会会報発行 第十六号

## 四、支部

○富士 十二月十三日

於 サンライズ

兼全体忘年会

○三島 一月三十一日

於 田代グリル

○沼津 二月六日

於 沼津キャッスル

○田方 二月七日

於 桂

○熱海 八月二十四日

於 後樂園

## 五、その他

○事務局会 二回

○二期の会 八月十六日

○その他各クラス・各クラブ

同窓会



総会風景

(もとブラバンの仲間)

# 支部だより

支部長をひきうけて

田方新支部長

山田守宏 (三期)



あけましておめでとうござい  
す。昭和六十二年の新春を迎えて  
皆様にはお元気に御活躍のこと  
と思います。

さて私は、この度田方の新支部  
長をひき受けさせていただくこと  
になりました三期の山田です。昨  
年の暮れに、支部長の野田先輩や  
事務局の三田村先生から、是非に  
と勤めがありまして、おひき受け  
させていただくことになりました。  
私は三島市内におきまして、建

設会社を営んでおります。その開  
係から、日本大学と母校には日頃  
から大変お世話になっております。  
そこで、母校に対しても何かお役  
に立てばと思っておりますが、  
田方支部長の任として、初代の植  
田正年先輩から野田昭二期先輩、  
そして私にということで、大変光  
栄に思っております。

しかし、支部活動を何からどの  
ように始めてよいのかわかりませ  
ん。が、さいわいに、母校には大  
変お世話になりました、北岡功校  
長先生がおりますし、高田菊平会  
長の会社と私の会社が近いこと、  
私の自宅の近くには事務局の江川  
先生がおられることなど、何かに  
つけて心強く思っております。  
母校野球部が春の選抜大会にお  
いて甲子園に出場、また、柔道部  
が全国大会に出場したことは、我  
々の胸に深く残っていることです。

## ——名支部長——

| 支部名 | 氏名     | 住所              | T      | E  | L     |
|-----|--------|-----------------|--------|----|-------|
| 三島  | 久保田 光  | 駿東郡清水町柿田九       | (〇五五九) | 七一 | 一九二二  |
| 田方  | 山田 守宏  | 田方郡大仁町立花台七四九—三七 | (〇五五八) | 七六 | 一五〇〇二 |
| 沼津  | 今井 信之  | 沼津市市場町一〇一       | (〇五五九) | 三二 | 一七八七八 |
| 御殿場 | 武藤 康徳  | 御殿場市新橋一九七六      | (〇五五〇) | 八二 | 二二八四  |
| 裾野  | 勝又 国佳  | 裾野市深良一五五一       | (〇五五九) | 七一 | 一三九二  |
| 富士  | 西村 雅幸  | 富士市横割六—二二五      | (〇五四五) | 六一 | 一五一七五 |
| 富士宮 | 秋山 一雅  | 富士宮市浅間町四—一五     | (〇五四四) | 二六 | 一三八四八 |
| 清水  | 久保田 容弘 | 庵原郡富士川町岩淵七八—一三  | (〇五四五) | 八一 | 〇八八八  |
| 静岡  | 松下 悟   | 島田市横井四—一一—二三    | (〇五四二) | 四五 | 一八三一五 |
| 熱海  | 谷口 俊二  | 熱海市上多賀九二〇—一     | (〇五五七) | 六八 | 一四〇二二 |
| 小田原 | 川口 功一  | 小田原市東町四—一〇—一    | (〇四六五) | 三四 | 一〇四六四 |

その時、母校より卒業生の名を教  
えていただき、数週間をかけて田  
方支部内の大仁分科会を、一期の  
牧野英一先輩のお力添えで発足さ  
せました。

なにぶんにも右も左もわかりま  
せんので、皆様の御協力のもとに  
支部活動をして行きたいと考えて  
おりますので、どうぞよろしくお  
願いいたします。

### 熱海

支部長

谷口俊二 (二期)

熱海支部としては、昨年八月二  
十四日、後樂園にて総会をかねて  
ボーリング大会を開きました。毎  
年のことながら、誠にこころよい  
ムードの中で親睦ははかられまし  
た。また、今年の一月十日には、  
戸田の民宿「大安」にて、「桜樹  
会」(熱海市役所に勤務する母校  
出身者)をもちました。これから  
も、ほそくながい同窓会の集いを  
もっていききたいと思っております。

## 三島

支部総会をひらく

支部長 久保田光 (二期)



こころい二年、やや集まりが悪  
かった我が支部であったが、今回  
は十一期以降の若手会員の声を受  
け準備段階から盛り上がり、当日  
一月三十一日(土)、田代グリーには

### 沼津支部総会特別記念講演会

室伏重信選手を迎えて

支部長 今井信之 (一期)



会員の皆様におかれましては、  
日々ご健勝のことと存じます。  
さつそくですが、二月六日(於  
沼津キャッスル)に総会をひらき  
ました。母校校長北岡功先生をお  
迎えし、会員の皆様も二百名  
を超える盛大なるものでした  
ここにあつく御礼申し上げる  
しだいです。

さて、総会を催すにあたり  
土屋照夫君、山田央一君、瀧  
口文昭君、山田浩子さん、榊  
原千恵子さんを中心とする会  
員の皆様と協議しました。そ  
して、標題の様に、沼津出身で  
母校四期生、ハンマー投げアジ

同窓会長をはじめ、母校校長、北  
岡功先生、ならびに田上先生のご  
出席をいただき会員六十名参加の  
もとに開催された。

藤幡君の司会により、本校OB  
のウェスタンバンド演奏など、な  
ごやかな雰囲気でお交を温めるこ  
とができた。時間がたつにつれ、  
同級生の輪は、先輩後輩に広がり、  
最後は全員が手をつなぎ校歌を斉  
唱し、会を締めくくった。母校三  
十周年を迎えるにあたり、我が支  
部も大いに活動し飛躍したいと考  
えている。



室伏重信君とともに

# 日本大学三島高等学校

## 同窓会規約

### 第一章 総則

第一条 本会は日本大学三島高等学校同窓会と称する。

第二条 本会の事務所は、これを日本大学三島高等学校内に置く。

第三条 本会会員は、日本大学三島高等学校の卒業生をもって正会員とし、現教職員および元教職員をもって特別会員とする。

第四条 本会は、母校建学の精神にのっとり会員相互の親睦と融和を図り、母校の発展興隆に寄与することを目的とする。

第五条 本会は、前条目的達成のために左の事業を行なう。

- 一、会員相互の親睦と融和をはかるための各種行事
- 二、母校の発展興隆に関する各種行事への協力・参加
- 三、その他、目的達成のために必要な諸行事

### 第二章 機関

第六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

- 一、総会
- 二、幹事会
- 三、支部会
- 四、事務局
- 五、編集委員会

#### 第一節 総会

第七条 総会は本会運営の最高決議機関である。総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。

第八条 但し、必要により各支部を代表する支部長をもって、総会の決議にかえることができる。

第九条 総会は本会運営についての立案実行の一切の事務を幹事会に委嘱する。

総会は四月一日より翌年三月三十一日までの年度一回、会長がこれを召集し、幹事会、会計監査の所管事項の報告をうける。但し、緊急を要する事項の報告をうけが認められた時、又は会員多数の要求があった場合、会長は臨時に召集しなければならない。

#### 第二節 幹事会

第十条 幹事会の運営機関として左記の事項を立案し総会の承認を経たのちこれを実行する。

- 一、予算・決算に関する事
- 二、事業計画に関する事
- 三、会則の改廃に関する事
- 四、その他、第五条によって必要と認めた事項

第十一条 幹事会の召集は幹事長が行ない、年三回以上、原則として過半数の幹事出席のもとに開催する。また、幹事長の幹事の三分の一以上の要求があった場合は、臨時に幹事会を召集しなければならない。

第十二条 幹事会には幹事長一名、副幹事長二名、庶務・会計二名、その他、必要とする役職を置き幹事会の互選により選出する。

第十三条 幹事会に常任幹事会を設ける。常任幹事会は幹事会の役職員

ならびに常任幹事によって構成され、必要により幹事会にかえることができる。

第十四条 幹事会は本会運営上、必要と認めた場合に臨時に特別の機関を設けることができる。

#### 第三節 支部会

第十五条 本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る。

第十六条 支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部によるものとする。

#### 第四節 事務局

第十七条 事務局は幹事会のもとで本会運営を円滑ならしめるよう務める。

第十八条 事務局は幹事会より委嘱された者をもって構成する。

#### 第五節 編集委員会

第十九条 編集委員会は幹事会に所屬し、原則として年一回の会報発度行、その他、本会運営上、必要なる広報の任にあたる。

第二十条 編集委員会は幹事会より委嘱された者をもって構成する。

#### 第三章 役員

第二十一条 本会は左記の役員を置く。

会長一名 副会長二名 幹事長一名 副幹事長二名 幹事、常任幹事、会計監査二名

第二十二条 会長、副会長は、幹事会の推薦により、総会の決議をもって選出する。会長は本会を統理し、副会長はこれを補佐する。

第二十三条 幹事長は幹事会を代表し、本会運営の責任を負う。

第二十四条 副幹事長は幹事会を補佐する。

第二十五条 幹事は各卒業学年の代表者が当たり、学年の意見を代弁し併せて会務を分担する。

第二十六条 常任幹事は各地区支部会の代表者が当たり、地区の意見を代弁し併せて会務を分担する。

第二十七条 会計監査は総会において選出され、経理を監査し、総会にその旨を報告し承認をうける。

第二十八条 各役員は総会の承認を経て、その任につき職務にあたる。任期は二年とする。但し、重任はさまたげない。

#### 第四章 会計

第二十九条 本会の経費は会費ならびに寄附をもってこれに当てる。

第三十条 正会員は卒業時に終身会費を日本大学三島高等学校会計課に納入する。

#### 第五章 表彰・その他

第三十一条 本会の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第三十二条 本会に貢献したものは会長が幹事会の議により、総会の承認を得、これを表彰することができる。

第三十三条 会員として名誉を毀損する行為があったときは、会長が幹事会の議により総会の承認をえ、これを除名することができる。

第三十四条 顧問は会長がこれを委嘱し、本会運営上の諮問に応える。

#### 第六章 附則

第三十五条 規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認をえて行なう。

第三十六条 制度施行 昭和三十六年三月十一日

改正施行 昭和四十七年四月一日

改正施行 昭和五十三年四月三十日

## 表彰規定

### 前文

本規定は日本大学三島高等学校同窓会規約第五章三十二条に基き、その適用細則を定めたものである。

### 第一条

本会々員にして、社会的に顕著な業績をあげた者に對し、所定の手続きを経て表彰することができる。

### 第二条

日本大学三島高等学校に在籍する者で、将来、国家社会に貢献し、母校及び本会の発展に寄与できる有為な人物及び団体に對し、奨学金又は奨励金を支給することができる。

### (一)

奨学金の支給をうける者は、最終学年に在籍し、在籍期間中、学業成績・人物・自治活動・健康に優れ有為な人物として学校長より推薦された者とする。ただし奨学金は一名を原則とする。

### (二)

奨励金の支給をうける団体は、生徒会所属の団体で、顕著な業績をあげ更に一層の充実・発展が期待されるものとして、学校長より推薦された団体とする。ただし奨励金は一団体を原則とする。

### 第三条

第一条、第二条の表彰式は、年度末とし、総会または入会式に行う。

### 付

本規定は昭和五十二年二月十二日より施行する。